

## 孔子伝

襄公 21 年（前 552）孔子、魯の陬邑に誕生す。（公羊伝、穀梁伝）「史記」は 22 年  
春秋左氏伝

昭公七年（前 535）十七歳。春秋左氏伝に登場

九月、昭公、楚より至る。孟僖子(仲孫矦)、(昭公の)礼を相(助)くること能はざりしを病(うれ)へ、すなわち之を講学し、苟くも礼を能くする者には之に従う。

其の將に死せんとするに及び、其の大夫を召して曰く、「礼は人の幹なり。礼無くんば以て立つこと無し。吾聞く、將に達者あらんとす、孔丘と曰ふ。聖人の後(後裔)なり。而るに(孔子の家は)宋に滅びぬ。其の祖・弗父何(ふつほか)は、宋を(国君として)有つべきを以て、厲公に授け、正考父に及びて、戴・武・宣(の三公)を佐け、三命して(卿となり)慈益(ますます)恭し。故にその鼎の銘に云う、

「一命して(士となった時は)僂(る=かがむ)し、再命して(大夫に昇進した時は)偃(う=かがむ)し、三命して(卿になった時は)俯し、牆に循ひて走る。亦余を敢えて侮るものなし。ここに(この鼎で)饘(せん=おかゆを作り)し、粥(うすいおかゆ)し、以て余が口を餉す」と。

其の共(恭)なるやかのごとし。臧孫紇(臧武仲)の言えるあり、曰く、「聖人の明德ある者は、もし世に当たらずんば、其の後必ず達人あらん」と。今、其れ將に孔丘にあらんとするか。我もし没するを獲ば、必ず説と何忌とを夫子に属し之に事へて礼を学ばしめ、以て其の位を定めよ(地位を固める)と。故に孟懿子(仲孫何忌)と南宮敬叔(南宮説)と、仲尼に師事す。

仲尼曰く(仲尼の評)：能く過ちを補う者は君子なり。(小雅・鹿鳴)詩に曰く、君子に是れ則り是れ効ふ、と。孟僖子は則り効ふべきのみ、と。

### 小雅・鹿鳴第二章

呦呦として鹿鳴き 野の蒿(よもぎ)を食む

我に嘉賓有り 德音孔だ昭なり

民を視ること桃(薄)からず 君子是れ則り是れ倣ふ

我に旨酒有り 嘉賓式(も)って燕し以て敖(あそ)ぶ

### 昭公十七年(前525)二十七歳。孔子、邾子に礼を学ぶ

昭公十七年秋、(魯の曲阜に近い)邾子(邾国の君主)来朝す。昭公之と宴す。

昭公はそこで官制に関する色々な由来を邾子に教えてもらった。

仲尼之を聞き、邾子に見えて之を学ぶ。既にして人に告げて曰く、吾れ之を聞く、「天子、官を失えば(古代の官制が失われると)官学、四夷に在りとは、猶ほ信(真)なり」と。

### 定公七年(前503)四十八歳。陽虎、政權を握る

### 定公十年(前500)五十二歳。魯と齊が夾谷で会盟し、孔子功績をあげる

夏、定公は齊公(景公)と夾谷で会盟した。孔丘が補佐をした。齊の黎弥(れいび)が景公に言うには、「孔丘は礼を知れども勇無し。もし萊人をして兵(武器)以て魯侯を劫(脅か)さしめば、必ず志を得ん」と。景公之に従った。孔子は定公と共に退出して言った。「士(戦士たちよ)之を兵せよ(武器で打ちかけ)。両君好みを合わす。而るに裔夷(辺境)の俘(虜)、兵を以て之を乱す。齊君の諸侯に命ずる所以(態度)に非ざるなり。裔(辺境)は夏(中国)を謀らず、夷は(中)華を乱さず。俘(虜)は盟を干(犯)さず、兵は好みに偏(迫)らず。神に於いて不祥となし、徳に於いては愆義(けんぎ=非義)となし、人に於いては失礼となす。君(齊公)必ず然(しか)せず(するはずがない)」。と。齊侯、之を聞き、遽(にわ)かに之を避けしむ。

將に盟はんとす。齊人、載書(誓の書)に付け加えて、「齊軍が国境を出て他国と戦う際に、兵車三百輛と共に我に従軍せざる者もしあらば、この盟の記すまま罰せらる」を入れると、孔子は、茲無遽に命じ、揖礼してこう答えさせた。「そして又、魯国の汶陽の田地を返還しない場合は、同様に罰せられるものとす」と。

齊の景公が、会盟が終わると定公を饗応しようとする、孔丘は、梁丘據に言った。

「齊・魯間の旧礼を貴方は御存知ないのか。もう会盟という大事は終了しました。それなのにさらに饗宴を催せば、そちらを煩わすだけです。しかも礼に則った酒器は揃鐘や磬の楽器は野外で演奏せぬもの。かくも大事な会盟に偽物を使ったとなれば、齊君の恥になります。中止されたがよかろう」と。饗宴は取りやめになった。後日齊人は、陽虎の持ち去った鄆・讎・龜陰の田土を返還してきた。

定公十二年(前498)五十五歳。三桓氏の勢力に対抗、失敗

仲由(子路) 季子の宰となり、將に三都を墮(こぼ)たんとす。

(三都 = 季孫子の費、孟孫子の成、叔孫子の郕の三都城。当時三桓の勢力強盛、魯に害) 是に於いて、叔孫氏、郕を墮つ。季子、將に費を墮たんとす。(費の宰の)公山不狃・叔孫輒、費人を帥いて以て魯を襲う。定公、三氏(季孫子、孟孫子、叔孫子)と季氏の宮に入り、武氏の台に登る(武子の楼台)。費人、之を攻む。克たず。(費人)定公の側に及ぶ(攻め込んできた)。(当時司寇だった)仲尼、申句須・樂頎に命じて下りて之を伐たしむ。費人北(逃)ぐ。国人之を追ひ、これを姑蔑に敗る。二氏、齊に走る。遂に費を墮つ。將に成を墮たんとす。公斂處父、孟孫に謂う。成を墮たば、齊人、必ず北門に至らん。且つ成は孟氏の保障なり。成無くんば、是れ孟氏無きなり。子、知らずと偽れ。我將に墮たれざらんとす、と。冬、十二月、定公、成を囲む。克たざず。

定公十五年(前495)五十八歳。子貢、定公の死を予言し的中する

春、邾の隠公、来朝す。子貢、これを觀る。邾子は玉を執ること高く、其の容(か容(かたち))仰ぐ。定公は玉を受くること卑(ひく)く、其の容俯す。子貢曰く、「礼を以て之を觀れば、二君は皆死亡するあらん。それ礼は、死生存亡の体なり。(中略)今、正月に相朝して、皆度あらず。心已に亡せり。嘉事、体あらず。何を以てか能く久からん。高仰は驕(慢)なり。卑俯は替(衰弱)なり。驕は乱に近く、替は疾に近し。君は主(人役)たり。其れ先ず亡びんか」と。定公夏に死す。哀公七年、邾子は魯軍に攻められ幽閉さる。

仲尼曰く、賜(子貢)や不幸にして言いて中る。是れ賜をして多言ならしむる者なり、と。

哀公十一年(前484)六十九歳。鳥は則ち木を撰ぶ。木豈に能く鳥を撰ばんや

衛の孔文子(孔圉)が自分の娘を嫁がせた、大叔疾が寵愛していた前妻の妹を囲って二人妻あるとき振る舞いをしたので怒って攻めようとした。仲尼に止められ娘を取り戻した。孔文子が大叔疾を攻めようとして仲尼に意見を尋ねると、仲尼曰く、「胡簋(祭器)のことは、則ち嘗て之を学べり。甲兵のことは、未だ之を聞かざるなり」と。退きて駕を命じて去らんとし曰く、「鳥は則ち木を撰ぶ。木豈に能く鳥を撰ばんや」と。魯人が弊(進物)を以て之れを召す。すなわち歸る。

#### 哀公十一年(前484)六十九歳。季孫子(季康子)税制を問う

季孫子(季康子) 田(の広さ)を以て賦せんとす。冉有をしてこれを仲尼に訪はしむ。仲尼曰く、「識らざるなり」と。三たび発す。(冉有が)卒(つ)いに曰く、「子(孔子)は国老たり。子(の意見)を待ちて行はんとす。之を如何ぞ、子の言はざる」と。仲尼対へずして、冉有に私して曰く、「君子の行うや、礼に度(はか)る。施は其の厚きを取り、事は其の中を挙げ、斂は其の薄きに従う。かくの如くんば、則ち丘を以てする(従来のように丘賦でやる)も亦足れり。もし礼に度らずして、貪冒厭くこと無くんば、則ち田を以て賦すと雖も、將に又足らざらんとす。且つ子季孫、もし行いて法あらんことを欲せば、則ち周公の典あり。もし苟もして行はんと欲せば、又何ぞ訪はん」と。(季孫子(季康子))聴かず。

従来の丘賦は、一丘(十六井)ごとに馬一頭、牛三頭。田畑と家財併せての税。今回の季孫子(季康子)の案は、従来の分は家財に、新たに田畑の広さに応じて丘ごとに賦課せんとするものである。

#### 哀公十二年(前483)七十歳。暦法の指摘

冬、十二月、螽(いなご)あり。季孫、これを仲尼に問う。暦を司る者の閏年の置き方が間違っただものと思われる、と。

#### 哀公十四年(前481)七十二歳。哀公、狩をして麟を獲る

十四年春、(魯では)西して大野に狩す。叔孫氏の車子、鉏商(しゅしょう) 麟を獲たり。以為(おも)へらく、不祥(不吉)なり、と。以て虞人に賜う。仲尼、之を觀て、麟なりと曰ふ。然る後に之を(記録に)取る。

#### 哀公十六年(前479)七十三歳。孔子卒す

夏四月己丑、孔丘、卒す。哀公、之を誄して(弔辞を賜り)曰く、「旻天弔せず。しばらく一老を遺し、余一人を屏(おお)い以て位にあらしめず。独り寂しく身も病に侵されるがごときなり。嗚呼、哀しいかな尼父。自ら律するところなし」と。

子貢が曰く、生きて用いること能はずして、死して之を誄するは、礼に非ざるなり、と。